



Japan Heart

2013 annual report

年次報告書

2013.4.1 ~ 2014.3.31



ジャパンハートのあゆみ

● 1995

● 吉岡秀人、ミャンマーで医療支援活動を開始



ミャンマーで活動を始めた頃の吉岡。

● 2004

● 国際医療ボランティア団体
ジャパンハート設立
● ミャンマー：ヤンゴンオフィス開設
● ミャンマー：ワッチェ慈善病院で
医療支援活動を開始
● 国際長期研修開始
● 頸部神経線維種ウィン君
手術のため来日



日本で手術を行い、命を取り留めたウィン君。

● 2008

● 日本：東京事務局開設
● カンボジア：プノンペンオフィス
開設
● ミャンマー：5月～サイクロン緊急
医療・孤児支援開始
● 心の医療事業開始
● 国際看護長期研修開始
(旧・国際長期研修)
● 日本：地域医療事業開始
● 第一回自由都市・堺 平和貢献賞
奨励賞受賞
● NPO 法人格取得



九州全土に相当する被害の中、医療・食糧支援を実施。

● 2009

● カンボジア：保健活動開始
● カンボジア：外務省 MOU 締結
● 脳瘤トウチャーアウン君
手術のため来日
● カンボジア：保健省 MOU 締結
● カンボジア：巡回診療・外科手術
活動開始



脳瘤(のうりゅう)という頭蓋骨の欠損部から脳の一部出してしまう先天的な病気の治療を日本で行った。

● 2010

● ミャンマー：養育施設 Dream Train
開設
● 俳優照英さんボランティア活動参加
● ミャンマー：視覚障がい者自立支援を
開始、視覚障がい者医療マッサージ
センターを開設
● 日本：すまいるスマイルプロジェクト
開始(旧心の医療事業)



28人で始まった養育施設 DreamTrain には、現在 220人が生活している。

自分自身のために、救い続ける。

特定非営利活動法人ジャパンハート代表
小児外科医

吉岡秀人

ジャパンハートを設立した10年前、たった数人ではじめて活動が、多くの人の協力を得て、たった数人ではとてもできない成果を与えてくれるようになりました。

その成果は、数万人の子どもたちの健康の回復であり、人生の質の向上でした。

もちろんそれは、この間の数万人を超える資金提供者や数千人の医師や看護師をはじめとする医療者の医療活動への参加、その他、無数のボランティアや学生たちの協力があつてのことです。

この間に私が悟ったことは 医師として、子どもたちを何とか助けてあげたいという私の個人的な欲求が、実は多くの人たちと同じ欲求であったのだということでした。

他の先進国同様に、日本もこれからは経済状況だけでなく精神的な状況も大きく二分化していくことでしょう。

すなわち、経済的なお金をたくさん持っている人間とそうでない人間の二極化と同様に、精神的にも自分のことだけで満足する人間とそうでない人間への二極化です。

もちろんどちらの人間の人生が恵まれ幸せであるかは、先達の教え通りだと思います。

そういう意味では、この活動に自ら関わってくれてきた人たちは、まさに幸せにより近い場所にすでに存在しているのだと思います。

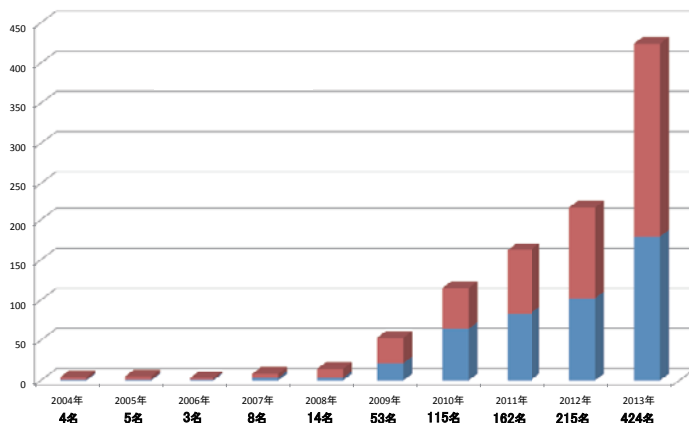
これからも海外の恵まれない子どもたちのため、国内の不遇な子どもたちのため、そして何より自分自身のためにご協力を願えれば幸いです。

10年一日、相も変わらず私たちは、淡々と、一人ずつ、子どもたちを愚直に助けたいと思っています。

ジャパンハート海外医療活動地 医療者参加のべ人数

■ 看護師
■ 医師

※ 2004-2008 年度：短期ボランティアを除く実参加人数



● 2011

- ミャンマー：養育施設 Dream Train、サイクロン孤児里親制度開始
- 日本：3月～東日本大震災緊急医療支援、復興支援事業開始
- カンボジア：夢の架け橋プロジェクト開始
- 国税庁より「認定NPO」認定を受ける
- 宮城県石巻「NPO法人ジャパンハートこども・内科クリニック」開設



被災直後から支援に入り、避難所や被災者宅を訪問し診察・こころのケア等を行った

● 2012

- 第38回大山健康財団賞受賞
- ニーニーちゃんプロジェクト開始
- ミャンマー：社会福祉省MOU締結
- 女優・戸田恵梨香さんボランティア参加
- ミャンマー：保健省MOU締結
- ラオスオフィス開設



活動地でのボランティアの様子をNHK BSプレミアム「輝く女」で放送。

● 2013

- ミャンマー：ミッチーナ医療支援開始
- ラオス：保健省とMOU締結
- ラオス：医療支援開始
- タイ：バンコクオフィス開設
- ミャンマー：首相夫人・安倍昭恵さん施設を公式訪問
- フィリピン：11月～台風30号緊急医療支援



日本人医療チームを派遣し、被災者1,125人を診療。

● 2014

- 国際緊急救援事業開始
- インドネシア政府とのTechnical Agreement締結
- 外務大臣表彰受賞
- 小児腎がんナムソムちゃん手術のため来日



日本・ASEANの大規模災害で迅速に救援に入るため、活動を開始。災害大国インドネシアとの支援ネットワークを構築する。

ジャパンハートが新たなページを開いた



ジャパンハートの医療活動は、ミャンマーから始まり、2008年カンボジア、2013年ラオスに拠点を設け、活動を広げてきました。

そして大規模災害での医療救援活動も、**拠点のあるミャンマー及び日本において、各々2008年、2011年に行ったことは記憶に新しいところ**です。

そして、**その活動の幅を広げることを決め、拠点の無かった2013年11月のフィリピンの台風30号の被災地に医療者を派遣しました。**

それまでは、拠点がないために、その被災国の許認可がタイムリーに取得できない、物資補給も確保できない、車両の調達、被災地までの確実なアクセスを確保できないなどの潜在的な問題を解決できずにいた。医師・看護師を派遣したものの、十分な活動が出来ず、また大した成果も残せずに撤退を余儀なくされた他の団体を見ていて、我々は拠点の無い国での緊急派遣を控えてきました。

しかしフィリピンでは現地の協力を迅速に確保したことで、現地に活動拠点がたとえなくとも、災害時において緊急救援ができることの検証を得ることができました。

現地での協力者を確保さえできれば、他の国でも緊急支援を行えることが証明され、この試みから得た経験を次につなげるため、インドネシアでも新たに緊急救援活動を開始しました。

そして、今後ミャンマー、カンボジア、ラオスのスタッフを訓練し、緊急救援のための災害医療チームを結成します。

これは大きな変革です。

近い将来、ASEAN諸国で、大規模災害が発生した際には、現地の医療者を災害医療チームとして派遣し、その後、日本から多くのボランティアを現場に受け入れることが可能な仕組みを確立していく予定です。

■ ジャパンハートの計画

今後発生するかもしれない次なる大規模災害に対して、**より迅速に必要な支援を届けるための仕組みづくりを開始**しました。先駆けとしては、インドネシアにて2014年6月9日に社会省とTechnical Agreementを締結し、政府直轄の市民防災組織「TAGANA」と連携し、既に数回の合同訓練を実施しています。

今後は、バンコク事務所に「災害事業管理・情報本部」を設置し、各地で訓練を受け強化された初動部隊と連動して、「ジャパンハート国際緊急救援チーム」が派遣される有機的な枠組みをASEANの拠点国を中心に整備する準備を進めています。

■ 何故「ASEAN」なのか、何故「今」なのか

アジアの国々(ミャンマーやフィリピン)や日本で発生した大規模自然災害に対して、ジャパンハートは緊急救援チームを派遣してきた経緯があります。その災害現場では、被災者の方々への保健医療サービスや、心のケアを含む活動を実施してきました。**アジアやその近隣地域では、大規模な自然災害が世界的に見ても、多く発生している状況**があります。

国連機関の発表によると、世界で発生した自然災害が及ぼした人的被害を見ても、アジア・太平洋地域が、もっとも甚大な被害を被っているとあります。(以下のグラフを参照)。

国連によれば、2011年、世界で発生している自然災害の80%がアジア・太平洋地域で発生しています。また2012年にはアジア地域で83の自然災害が発生し、3103人が犠牲となりました。これ

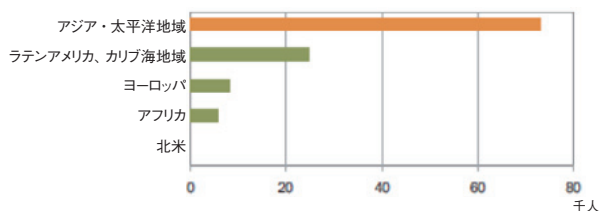
によりタイ国人口と近い6450万人の人たちが影響を受け、15.1兆ドルの経済的な損失が発生したと報告しています。

さらに続けて、世界的な天候の変化や多くの地球プレートが重なり合う位置にあるアジア・太平洋



地域においては特に今後災害の発生リスクが非常に高い地域と称し、ASEANを含む地域諸国連合体や各国に対し、減災のための施策を強化するよう助言しました。

過去10年間の自然災害による死亡者数



出所: United Nations Economic and Social Commission for Asia Pacific, <http://www.unescap.org/stat/data/syb2011/II-Environment/Natural-disasters.asp>

グラフの説明

アジア・太平洋地域は、ここ10年で2億人の人々が自然災害の被災を受け、7万人の人たちが命を落とした。

死亡者の65%が同じくアジア・太平洋地域で発生したことになる(国連: UNESCAP)。

Figure II.20 - Average annual population affected and killed by natural disasters, world regions, 2001-2010



緊急災害
医療支援

フィリピン台風30号の被災地へ 一刻も早く医療を届けるために

2013年11月8日、フィリピン中部を襲った猛烈な台風30号は甚大な被害をもたらした。その被害は2014年1月14日までの集計で死者6,201人、負傷者28,626人、行方不明者1,785人、被災者数1,600万人と言われている。(フィリピン国家災害リスク削減委員会)

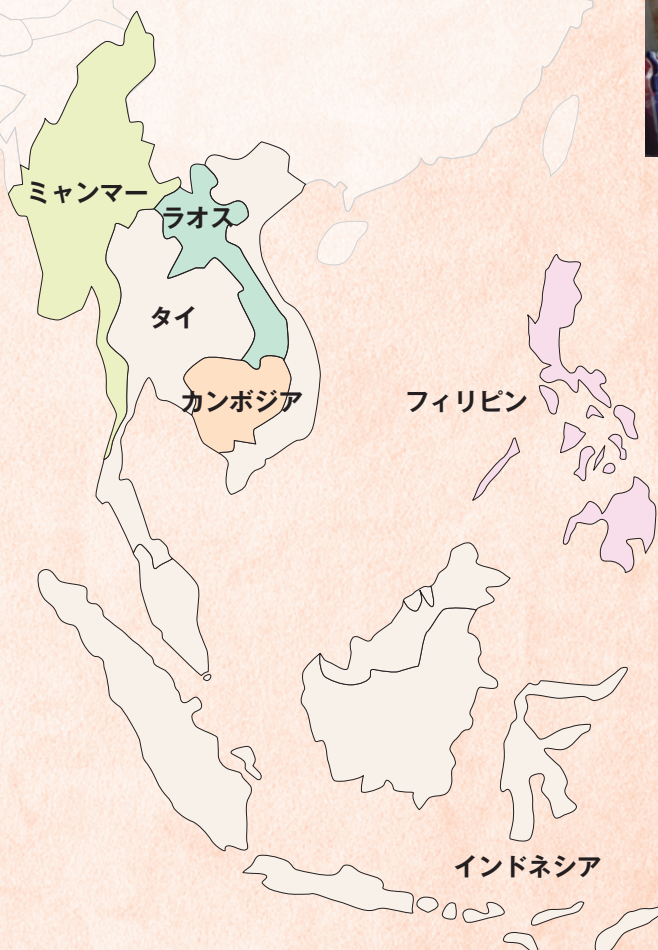
ジャパンハートは報道を受け、拠点のないフィリピンでの活動を行うため、安全管理を含むマネージメント部隊と医療支援部隊がドッキングするアプローチを選択。現地の初動部隊との連携のもと、緊急医療支援を実施することを決定した。

直ちにバンコクに災害対策本部を設置したが、各海外拠点より日本人医師6名、看護師4名を被災地へ派遣。現地ではフィリピン政府や国連OCHAと協調し、地元消防救急救団員や警察官ら16名とともに、水路で阻まれ最も病院へのアクセスが悪いバナイ島口ハス市の北部沿岸エリア11ヶ所の村をボートで巡回。2週間強で計1,125名の診察・診療を行った。

翌年2月には支援後の現場視察を実施したが、11月から2月1日までに支援地域での感染症などの報告はなかった。また被災時にこのエリアに介入した医療団体はジャパンハートが唯一であり、地元ヘルスセンタースタッフ並びに関係省庁より多くの感謝の言葉を受けた。村の医療機関や学校は一部を除いて再開しているものの、インフラに関しては、市内と比較すると遅れをとっており、水の供給がない場所が存在し、電気は一樣にきていないという状況であり、整備にはまだ時間を要する見込みであった。

今回は拠点のない場所での初めての緊急医療支援活動であったが、地元協力部隊との連携・協力により大きな成果を収めることができた。

この挑戦によって、今後さらにASEAN地域に緊急救援体制を確立していく大きな一歩を踏み出したことは間違いない。





チューンプレイ病院

ロカカオン病院・

プノンペン・

ペイリアン病院

Cambodia
カンボジア

国の立て直しの鍵は医療者育成。 1人でも多くの子どもを救い、 1人でも多くの医療者を育てる。

医療活動

今年度から、活動地が1カ所増え、計3州3地区で手術活動計11回、手術件数338件、巡回診療7回1,140名の診療を行いました。今年も多くの短期ボランティアの医師・看護師の方にご参加いただき、それぞれの専門性を発揮して頂けるように単科（外科・婦人科・形成外科）での手術活動も行いました。

今年の活動にはリピーター医療者が多く、カンボジアの医療活動に参加して頂いた医療者の半数は、以前にも活動に参加して頂いていました。数回に分けて手術が必要な患者さんにも同じ医師に執刀して頂くことができました。

現地人医療者にとって、多くの日本人医師に出会い、指導を受けながら一緒に手術を行うことは、大きな刺激や経験となっています。この私たちの活動を通して、現地人医療者が成長していけるように今後の活動を進めて行きたいと



思います。



また、これまで5年の活動を通して、現在支援をしている地域では多くの患者さんに治療を行うことができました。しかし、カンボジアにはまだまだ医療が届かない場所が多くあります。ジャパンハートカンボジアではそういった患者さんへ医療を届けるために、活動地を広げていこうと考えています。2014年度には今まで活動をしていた州・地区だけではなく、活動地から遠方の州や地区へ足を運び、巡回診療と手術を行う予定です。

保健活動

今年は健康診断や自分の健康を守るための方法の講義などを2つの高校で行いました。その他にも小学校で生理の授業、診療所で一次救命処置の指導を行ってきました。カンボジアには学校で保健の授業がなく、健康について指導してくれる人がいません。今後はそういった健康についての指導を受けることが出来ない学生に、学生時代に知っておくべき健康問題や身体についての授業をより多くの場所で行えるように進めていきます。また、学生だけではなく、学校の教員が自ら健康について授業を行うことが出来るようにも計画を進めていきます。



夢の架け橋プロジェクト（奨学金制度）

優れた医療者を育て、カンボジア人自らの手で、国の医療を立て直していこうと、2011年に始めた夢の架け橋プロジェクトも、4年目を迎えました。医療者になることを志す、地方の学生を対象に学費・生活費・住居の提供等の支援を行っています。また金銭的な支援だけでなく、医療知識や技術、臨床の場の提供も行っている点が当団体での奨学金制度の大きな特徴です。

今年は新たに2名の看護学生を受け入れ、医学生4名、看護学生4名の計8名を支援しています。人数も増え、学生同士での勉強会が多く開催されており、活気に満ちています。学生はみな地方出身で、十分な医療を受けら

れない現状を経験しており、その現状を変えたいという強い意思があります。そのため学生は、ジャパンハートの医療・保健活動に積極的に取り組んでいます。その活動を通して、日本人医療者から知識、経験を積んでいます。立派な医療者になるためにと、貪欲に様々なことを吸収しています。

『カンボジア人自らの手で、国の医療を立て直していく』という目標に向かい、長い道のりですが支援を続けていきます。またこの志ある学生たちを支援して頂ける方も継続して募集しています。



奨学生・医学部3年
ヤブ ポアン

障害や経済状況に負けずに、希望を実現させたい

私はジャパンハートの奨学生になって幸運でした。医学部の勉強はもちろん簡単ではありません。今よりもっと勉強し、もっと本を読み、もっと研究をしなければなりません。大変なことは多いですが、里親さんやジャパンハートの愛が勉強の励みになっています。皆さんは私に、勉学という最良の機会を与えてくれました。私の家庭は貧乏です。多くのクラスメイトが持っているものすら買えません。今は大学で勉強することができ、里親さんやジャパンハートのみなさんの愛をもらい、とても幸せです。将来はカンボジアの医療の発展に貢献したいです。外国人医師、カンボジア人医師と働き、互いの知識や技術を共有したいです。そして貧しい人々を救いたいです。あらゆる障害や経済状況に負けずに、勉強することで私の希望を実現させたいです。私にはそれが出来ると信じています。



Photo by Junji Naito

ミッチーナ

ワッチェ慈善病院

ヤンゴン
Dream Train

Myanmar
ミャンマー

貧しい人々へ医療を届けて 10 年。 新しい挑戦へ。

医療活動 / ワッチェ・ミッチーナ

ミャンマー中部サガインのワッチェ慈善病院での医療支援がスタートして10年。ミャンマー国内での実績を評価されたジャパンハート医療チームは、州政府より依頼を受けて、2013年5月よりミャンマー最北部・カチン州ミッチーナでの医療支援もスタートしました。

今でも民族紛争の続くカチン州は、医療施設および医療者の数も限られた医療過疎状態にあり、難民キャンプで不安定な生活をする人々も多く存在する地域です。2013年度は、5月・8月・12月の3回に渡って本拠地であるワッチェ慈善病院から医療チームを派遣し、子どもを中心に約600名の外来診察および手術を無料で実施してきました。

また、ジャパンハートの原点でもあるワッチェ慈善病院での医療支援は、活動開始から10年以上経った今も継続的に活動を行っています。日本からの医療ボランティアの数も



年々増えており、現地の医療者、そしてジャパンハートスタッフがー丸となって、1人でも多くの患者さんの治療を行うべく、1日に20～30件の手術を早朝から深夜まで行っています。

ワッチェ慈善病院での子どもの治療・手術は、J.S.Foundationの協力を得て実現しています。

また、病院までのアクセスが悪い地域への移動診療にも力を入れており、「より医療の届かないところ」へ「私たちにしか救えない命」を求めて、ジャパンハート医療チームの挑戦は続いています。

養育施設 Dream Train



Photo by Junji Naito

2010年11月、HIVで親を亡くした子ども、貧困で毎日の食事や教育を受ける機会に恵まれない子どもたち28人を受け入れてスタートしたDream Trainは、無事に3周年を迎え、今では総勢220人の子どもたちが共同生活する大所帯となりました。大きい子ども達は、年下の子ども達の生活面や学習面での面倒もよく見ており、まるで本当の兄弟のような光景を目にすることも多くなってきました。

また子ども達も年々成長し、大学に進学する子どもや、職業訓練にて自立を目指す子どもも出てきており、職業訓練の充実が大きな課題です。その中でも、縫製の職業訓練を受けている子どもに関しては、外国人観光客向け商品の注文を受けるレベルにまで上達してきています。

貧困の連鎖によって、親元を離れて暮らす事となった子ども達。この連鎖を断ち切るべく、今後は子ども達の自立に向けての職業訓練の充実を目指しています。



サイクロン孤児

2008年のサイクロン被災から6年。災害にて親を亡くした子どもたちも年々成長し、すでに数名の子どもが無事に学業を終えて自立しています。過酷な体験を乗り越えてきた子ども達に対し、全員が社会的に自立するまで、生活および教育支援を継続して行なっていきます。



視覚障がい者自立支援

ミャンマー社会福祉省と日本大使館の協力のもと、外務省の無償資金供与により完成した「医療マッサージ教員養成所」の開所式を7月に挙行了しました。今年度から、日本人専門家から教育を受けた視覚障がい者の教員が、視覚障がい者の生徒に教育をするシステムに移行しました。また、卒業生の就職先を用意するため、日本の民間店舗と共にマッサージ店「nagomi」をオープンさせました。そして、教員1名が日本の盲学校の入学試験に合格し、母国を離れての勉学に励んでいます。3年後、日本の国家資格をミャンマーに持ち帰り、視覚障がい者マッサージの更なる発展に尽力してくれることでしょう。今後もミャンマーの視覚障がい者の経済的・社会的自立のために、教育面と就職面の両方をサポートして行きます。



保健活動

寺子屋に通う子ども達が健康な状態で学業に専念できるよう、健康診断および保健衛生指導を行っています。小児科医による健康診断によって明らかとなった栄養失調や皮膚トラブルなどの健康問題に対するアプローチを行っています。



医療者育成

一般財団法人新倉会の支援を受けて、2010年より医科大学および看護大学で勉学に励む学生に対して奨学金サポートを行っています。すでに6名が学業を終え、ミャンマー各地にて看護師として活躍しています。また、日本の高い技術およびホスピタリティーを伝えるべく、現地医師への技術指導、看護師の育成にも力を入れています。次世代のミャンマーの医療を担っていく優秀な医療者を育成を通して、ミャンマーの医療の発展に貢献しています。



ピエンチャン

Laos
ラオス

新たな活動地ラオス 最重要課題は救命処置

医療活動

支援先の郡病院医療者の手で外科診療を提供できるようになること、診察技術向上を目指し、現地人医療者と共に活動しています。最終目標は帝王切開を行えるようになることです。2013年6月より移動診療を繰り返し、医療機関にかかることが難しい僻村の村人を対象に診療を提供、同時に現地人医師への診察技術移転を実施してきました。診察技術はさることながら、カルテ記載方法、投薬方法、すべてにおいて日本のそれとは異なる医療事情に戸惑い、彼らから学び、歩み寄り、彼らと共に歩んでいます。

7月には初めての手術活動を実施しました。初回は傍観者だった現地人医療者ですが、その後、回を重ねる毎に積極的に手術に参加するようになり、現在では小さな手術の執刀に挑戦しています。

JICAが約50年にわたり支援を続けている国ラオスは、いまだ後発途上国を脱却できていません。

活動を始めてみて新たに見えてきたラオスの医療事情。一筋縄ではいかない問題に悪戦苦闘の日々ですが、平等に医療を与えられるよう活動を進めています。

保健活動

近年、発展が著しいラオス、都市部では車が溢れ、交通事故数も増加し続けています。しかし、救急システムは機能しておらず、搬送が間に合わず命を落とす人、お金がないと病院に運ぶことすらしてもらえない人、搬送先で迅速に対応されずに命を落とす人が多くいます。

我々はラオス最大の国立病院で全看護師375名を対象に約10ヶ月かけて一時救命処置のトレーニングを実施しました。また、医療者だけではなく、一般の方にも初期診療の重要性を学んでもらうべく、インターナショナルスクールで同様のトレーニングに加え、応急手当の講義を実施しました。今年度はラオス国立大学、公立高校でも実施予定です。また、地元レスキューチームと連携し、救急システム構築と向上を目指し、支援を続けます。

一次救命や応急処置の知識・技術を知っていれば落とさずに済んだ命を一つでも減らせるよう活動を続けます。



東日本復興支援



医師の派遣

気仙沼市にある未就学児サークルの健康相談、石巻市内保育施設での健診・健康相談、また石巻市夜間急患センターの夜間対応へ小児科医師を派遣いたしました。また、気仙沼市内の仮設住宅へ訪問されているボランティア医師の医療活動へ看護師が同行し、仮設住宅で過ごされている地域住民へ向けて支援を行いました。

心のケア活動

宮城県気仙沼市の公私立幼稚園5園へ継続して心のケアを実施しています。

心のケアでは、臨床心理士の協力のもと、毎月気仙沼の幼稚園へ訪問、個別カウンセリングおよび教員からの相談対応を行っています。また心のケアの一環として、親子を対象にしたヨガ教室、アロマ教室など、親子間で身体を使った心地の良いコミュニケーションを体感できる

教室を開催しました。過去の震災では、心のケアを必要とする児童数は経年的にみて3年後にピークを迎えたといわれています。今後も気仙沼での活動を継続していくとともに、必要とするところへ心のケアが届いていくよう引き続き取り組んでいきます。

クリニック

震災後より、平日の診療で疲弊している被災地での医療者の補完をする役割として、土日祝日および年末年始に診療を実施しました。旧石巻医療圏（東松島市・石巻市・女川町）の医療機関再開状況が約89%に達し、震災後の緊急医療支援の役割を終えたと判断し、2014年3月10日にクリニックを閉院しました。開院～閉院までの250日間の診療で、延べ4,310名の患者を診察。2013年度は岡山・関東などの地域から11名の小児科医師が駆けつけ、診療支援を行いました。

地域医療 ～へき地・離島～



医療人材支援と医療者育成

日本僻地離島の医療者不足地域への人材支援とジャパンハートの人材育成を目的としています。

2008年度より僻地離島へ看護師の配置を開始し、昨年度36名、これまでのべ84名（2008～2013年度）の看護師が僻地離島の人材不足の一助を担ってきました。同時に地域にとって唯一の存在である病院で働く医療者は地元住民の命を守る使命感に熱く、自らの責任を強く自覚しています。また患者を「断れない」背景から、マルチに患者を見て判断する力に非常に優れています。その看護師像はジャパンハートが目指す人材育成と一致しており、国際看護長期研修の研修地でもあります。

活動病院は東日本大震災支援活動地域の気仙沼市立本吉

病院が新たに加わり、計6ヶ所（島根県隠岐諸島、長崎県上五島・対馬、山梨県牧丘町、宮城県女川町）です。医療を支える志とジャパンハートの学ぶ意識の高い看護師が一緒になって僻地・離島医療を守っていきます。

海外医療パートナーシップに関する協定

11月、長崎県病院企業団とのパートナーシップ協定を締結しました。

これは国家自治体と民間NGOが協力関係を公に示した画期的な事例となります。長崎県企業団がジャパンハートより意欲の高い人材を確保する事、企業団病院職員がジャパンハートの活動国において海外医療研修を実施する事を公休内で認める事、などを約束しました。



すまいるスマイル プロジェクト

**その子に、みんなに、笑顔が生まれる。
それは病気と闘う勇気になる。**

活動内容

小児がんとたたかう子どもとその家族に、たくさんの「すまいる」を届けたい。

すまいるスマイルプロジェクトは、子どもとご家族が旅行先で安心して過ごせるよう、医療者が旅行の付添いサポートをしています。長期にわたる闘病生活のなかで、「これを乗り越えたら〇〇へ行こう!」という希望を、旅行後は「楽しかった! 次はどこにいこう?」と外へ踏み出す勇気に変え、次なる目標に繋げていけます。「すまいる」は、子ども・ご家族だけに収まらず、サポートさせて頂く私たち医療者や、ボランティアの皆さまへも広がっていきます。

昨年度は、ディズニーリゾートへの付添いが人気でした。村角羽美ちゃんは、当初は在宅で酸素投与が必要な状況でしたが、旅行日程も近づき、面談でご家族とお会した時には呼吸状態も改善していました。旅行当日は、酸素ボンベを持ち運びしていましたが時々使用することのみで、休憩を挟みながらご家族揃って園内で楽しく過ごすことができました。とても人懐っこく優しい羽美ちゃんは、私達医療者にもすぐに慣れ、お別れの時にはギュッと抱きしめてくれたのを今でも鮮明に覚えています。



村角羽美ちゃん 5歳

お母様からのお手紙

いつもすぐそばでサポートしていただけるという安心感で、家族旅行をよりいっそう楽しく行うことができました。同行して下さった看護師さんも良い方ばかりで、娘達もとてもなついており、お別れするのが寂しかった様です。旅行前に入院し、体力的にも病状的にも不安でしたが、今回の旅行で又、新たな事にもチャレンジしていける自信もつきました。ジャパンハートの皆さま、本当にありがとうございます。



Photo by Junji Naito

看護研修

世界の宝となる 日本人看護師を創る。

国際看護長期研修

国内外のあらゆる舞台で活躍できる「自立した日本人看護師」を育成することを目的に、海外・国内僻地離島における臨床医療実践の研修を行っています。限られた人材・資源の中で常に意識を持って考え行動することで、臨床看護能力・コミュニケーション能力等を培い、自らで考え、判断し、行動できる看護師に育っていきます。

海外研修地はミャンマーのほかカンボジアが加わり、国内研修地は長崎県上五島・対馬等の僻地離島としています。研修中は国内での事前研修で症例検討や実習を導入し、準備体操の時間をとっています。また各自研修目標を設定し、目標に近づくよう研修部は指導・サポートを行います。

昨年度は21名の看護師が研修を修了、これまでのべ117名(2004～2013年度)が卒業しました。研修後は国際医療支援チームメンバーの一員として、海外・国内僻地離島で貢献しています。

今年度からはさらに海外短期実習のほか、オンライン

英会話の導入など、研修後、活躍できる場がさらに広がることを視野に入れた研修内容となります。



Photo by Junji Naito



皆さまとの活動

**「自分のことから始めたい」
どなたでもできる活動があります。**

国際医療短期ボランティア

「日本の医療資格さえあれば、十分に途上国の医療支援に貢献することができる」

日本の医療者が仕事を続けながら、数日間の休暇を利用して海外の医療活動に貢献できる仕組みを生み出しました。

医療者はもちろん、一般・学生も気軽に参加できます。海外医療に興味があるが、キャリアや休暇、英語力等を理由に挑戦することを断念している医療者を活かしたい、短期間であれ、海外医療を通じて参加者が得る価値は計り知れない、等の思いがそこにはあります。この仕組みを活用して、

日本人医療者同士がチームを形成し、現地の医療者と協働して診療・手術を行います。海外でも、日本語でコミュニケーションをとるので言葉のストレスも軽減されます。また、日本人医療者が駐在していることで、数日間の活動でも十分に貢献できる環境を整えることができています。

2013年度は275名（医師95、看護師101、一般7、学生13、スタディーツアー59）が参加した他、専門家リピーター医師による手術（小児外科・整形外科等）、医師・看護師の団体参加も増えています。



ミャンマー、カンボジアで参加
看護師 坂井 理恵さん

自分の人生観に大きな刺激を与えてくれる経験でした。

今まで3回参加しました。初めは不安もありますが、それ以上に多くの学びがあります。「医療の届かないところに医療を届ける」この揺るぎない志を遂行しているスタッフの方達から、仕事に対する責任の重さを学びました。異文化や限られた資源の中で試行錯誤する姿に、日本人として、看護師として誇りを感じました。そしてここで出会う方たちの人生観は私に大きな刺激を与えてくれました。

途上国に来て実感したこと。それは私たちが豊かな国に生まれたことで、多くの人生の選択肢を得ていることです。それに感謝しながら、これからも自分にできることを探していきたいと思います。

吉岡先生が現地でおっしゃっていた「20代30代は時間とお金を使って自己投資、40代はそれを活かして社会貢献」。この言葉は今も私の励みとなっています。

イベント・セミナー

様々な対象者に向けたイベントを関東・関西で実施。活動の説明や体験談などを通じて、国際協力への理解を深めると共に、同じ興味を持つ方々との交流の場としています。

また、看護師向けの研修説明会や講演を行い、途上国医療の現状、現地の生活、実際に医療活動を行った看護師たちの体験報告も聞くことができます。



VOICE



感動に出会えるイベント

Chit Koさん(会社員)

「恵まれない子どもたちが作った、ミャンマーの伝統的なグッズを販売しています！」去年の夏、グローバルフェスタでこの声を聞いて私は感動しました。私も人々や子どもたちのため、できるだけ努力をしなければいけないと思いました。

ボランティア

国内外で行う活動の基盤となる業務を行うのが東京事務局です。ここでは、多くの方がボランティア活動をされています。2～3か月に1回、週2回など、ライフスタイルに合わせた参加が可能です。また、翻訳、デザインなど、自分の持つ専門性の高いスキルや知識を活かして「プロボノ」として自宅で作業をされる方もいます。



VOICE



空いた時間を有効活用！

遠山 俊介さん(はり師・きゅう師)

スタッフの皆さんがとても暖かく迎えて下さり、すぐに慣れ親しむことができました。空いた時間を有効活用できるのは、ボランティアのメリットの一つです。自分の余暇ですが、知らない間に人助けに繋がっている事、とても素晴らしいと感じています。

スタディツアー

年に数回、一般・看護師・学生を対象とした海外活動地へのスタディーツアーを実施。Dream Train 訪問ツアー、看護師限定ツアー、中高生スタディーツアーなど、日本からスタッフが同行し、参加者同士の交流プログラムを設けているので独りの参加や海外渡航が不安な方でも安心です。



VOICE



自分を見直す機会になる

多田 恭子さん(看護師)

日々の業務に、どこか医師任せの無責任感や何もできない無力感を感じていてツアー参加を決意。そこで目にしたのは、看護師の責任感の強さ、専門性の高さだった。看護師とは本来どうあるべきか、ここでしか気づけない心得があった。出直してきます！

インターン

インターン制度とは、半年から一年程度、各活動地の運営の一端を担い、無給で団体に従事しながらNPOの仕事を学ぶ形態です。今年も3名の社会人、1名の学生が参加しました。この貴重な経験を糧として就職活動に活かす、国際協力の世界に入るなど、その後の進路は様々ですが、皆多くの実りを得て、社会に旅立っています。



VOICE



得た経験は宝物

池上 玲さん(大学生)

インターン活動を通じて出会えた方々が私の一番の財産。自分の人生を真面目に考え、挑戦してみたいことが沢山でき、NGOでインターンをしていなかったら得られなかった事だと思う。日本でも、海外でも本当に沢山の経験をさせて頂きました。

会計報告

2013年度 活動計算書 2013年4月1日から2014年3月31日まで (単位: 円)

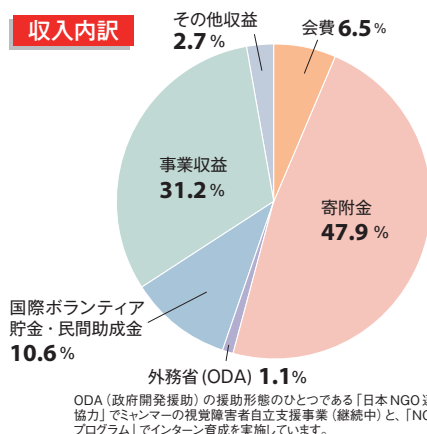
科目	決算額	前年度決算額
I 経常収益		
1 受取会費	10,976,000	9,988,000
2 受取寄附金	81,193,184	89,711,269
3 受取助成金等	19,915,145	101,559,030
4 事業収益	52,867,232	35,649,031
5 その他収益	4,643,824	9,082,177
経常収益計	169,595,385	245,989,507
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費	66,515,879	63,436,447
(2) その他経費	144,938,045	133,161,304
寄附金支出(現地へ建築物等寄贈)	43,578,184	27,359,557
旅費交通費	28,832,455	32,937,721
学業・子ども支援費	11,081,518	8,032,169
医療支援・医薬品材料費	9,314,243	10,433,213
減価償却費	8,772,928	11,682,162
消耗品費	7,670,735	3,386,941
業務委託費	6,139,151	7,155,762
地代・家賃	4,473,357	5,857,921
車両費	3,571,439	5,300,822
その他活動に係る経費	21,504,035	21,015,036
事業費計	211,453,924	196,597,751
2 管理費		
(1) 人件費	18,534,502	16,547,988
(2) その他経費	9,854,893	8,352,004
管理費計	28,389,395	24,899,992
経常費用計	239,843,319	221,497,743
当期経常増減額	▲ 70,247,934	24,491,764
III 経常外収益		
経常外収益	0	3,201,863
経常外収益計	0	3,201,863
IV 経常外費用		
固定資産売却除却損	7,075,365	
日本NGO連携無償資金協力第3期返納金	587,547	
経常外費用計	7,662,912	1,004,920
税引前当期正味財産増減額	▲ 77,910,846	26,688,707
法人税、住民税及び事業税	139,198	219,015
当期正味財産増減額	▲ 78,050,044	26,469,692
前期繰越正味財産額	345,518,094	319,048,402
次期繰越正味財産額	267,468,050	345,518,094

2013年度 貸借対照表 2014年3月31日現在 (単位: 円)

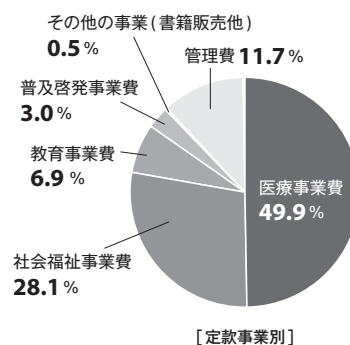
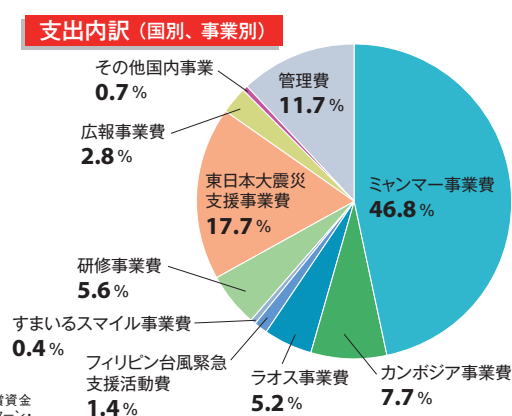
科目	決算額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金預金	119,860,515
棚卸資産	1,597,427
その他	4,341,185
流動資産合計	125,799,127
2 固定資産	
土地	77,595,012
建物	38,066,661
車両運搬具	6
工具器具備品	6,556,825
ミャンマー土地賃借権	21,135,314
ソフトウェア	593,600
敷金	697,400
長期前払費用	1,854,020
固定資産合計	146,498,838
資産合計	272,297,965
II 負債の部	
1 流動負債	
未払金	2,323,293
前受金	820,000
その他流動負債	300,622
流動負債合計	3,443,915
2 固定負債	
リース負債	1,386,000
固定負債合計	1,386,000
負債合計	4,829,915
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	345,518,094
当期正味財産増減額	▲ 78,050,044
正味財産合計	267,468,050
負債及び正味財産合計	272,297,965

※収益：会費、一般寄附金、事業収益は増加しているが、東日本大震災指定寄附が前年度に比べ約1/4に減少したこと、ODA資金協力が前年度をもって終了したことにより収益が落ち込んだ。
費用：前年度に受領した指定寄附金および助成金の費用が期をまたがって当期に発生したため、当期の費用が膨らんだ。
上記に従い、経常増減額がマイナス70百万円となっている。

収入内訳



支出内訳(国別、事業別)



多くの企業やメディアが注目しています。

ジャパンハートの活動は、医師や看護師、ボランティアの方々はもちろん、多くの企業やテレビ・新聞・雑誌・出版社などのメディアにも取り上げられ、支えられています。

企業との主な取り組み

◆ ルフトハンザ ドイツ航空

「HelpAlliance（ヘルプアライアンス）」

東日本大震災被災者を支援する募金活動を行い、その寄付先としてジャパンハートをお選びいただきました。

◆ コヴィディエン グループ ジャパン

「すまいるスマイルプロジェクト」のために社員の皆様に募金活動を行い、さらにアメリカ本社のマッチング寄付制度を活用し多額の支援金を集めて下さいました。

◆ 株式会社 SHIFT

新しい事務所のお披露目に約100名の方が参加。会場ではチャリティー眼鏡を販売し、売上げを寄付いただきました。



気軽にできる国際協力

◆ 本 de Bokin

『本 de Bokin』はジャパンハートと古本買取販売の「バリューブックス」「ブックオフ」とが協同で行う読み終えた本をお金にかえて寄付するしくみです。



◆ gooddo

gooddoサイト内にある、ジャパンハート特設ページで、協力企業に「いいね!」などのアクションをすると1回10円が協力企業からジャパンハートに支援されます。

2013年度の主なメディア掲載

◆ テレビ

NHK 総合「おはよう日本」
テレビ東京「未来世紀ジパング」
朝日放送「世界の村で発見!こんなところに日本人」
BS朝日「いま世界は」他

◆ 雑誌

AERA「アジアで勝つ日本人」
コトレシビ「いのちの授業」
Precio「Doctor's White Paper」
Lattice「ミャンマーに音楽を届けるプロジェクト」
小児科「小児科医が行ういのちの授業」他

◆ 新聞

大分合同新聞 新年特別号「東南アジアで医療支援 吉岡秀人医師」
東京新聞、西日本新聞、中部経済新聞、信濃毎日新聞、デーリー東北、大阪日日新聞、高知新聞、ジャパンタイムズ、他15紙以上

ジャパンハートのホームページがリニューアルしました!

支援企業、アライドアーキテクト株式会社様のご協力で作成いただきました。
またサーバーはベトナムでの開発事業を行う株式会社セタインターナショナル様からご提供いただいております。



ジャパンハート学生チームHeart'sの活動

学生チームHeart'sと学生オーケストラ団体MOTIFが「ミャンマーに音楽を届ける」を合言葉にチャリティーコンサートを開催。コンサートで資金を集め、養育施設Dream Trainの子どもたちに生のオーケストラ演奏と楽器をプレゼントしました。



吉岡秀人の本・DVD



新刊「救う力」廣済堂出版



DVD「たった一つの命の使い方」

活動への支援

様々な形で支援いただけます。

ジャパンハートの活動は、皆さまの支援で支えられています。
皆様からお預かりした寄付金・募金は活動地での薬品・医療器具等の購入及び活動費として大切に使用させていただいています。

会員になる

正会員・賛助会員（医療従事者・一般・学生・法人会員）として、
ぜひ私たちの活動をサポートしてください。

会 員 の 特 典

- ① 活動地への短期ボランティア・各研修への参加資格
- ② 年次報告書（年1回）、メールマガジン（月1回）等の購読
- ③ 総会での議決権（正会員のみのみ）

◎法人会員の特典

- ・当団体のwebサイト上の「国際人道支援協賛団体リスト」への掲載、Webサイト、企業パンフレット、その他印刷物等に、当団体のロゴの記載が可能
- ・オリジナルのスタディーツアーなど特別プログラムの企画・実施、社員様参加時の割引制度 など

年会費

	正会員	賛助会員
医療従事者	20,000円	18,000円
一般	10,000円	10,000円
学生	10,000円	6,000円
法人会員	100,000円	60,000円

お申込み方法

電話：東京事務局へお問い合わせください。
インターネット：団体ホームページの「支援する」
→「会員になる」よりお申込みください。

マンスリー寄付

1日約30円からできる、継続的な活動サポートです。
毎月決まった金額を寄付することができます。

■ オンライン決済

団体ホームページ「支援する」ボタンより、「寄付する」ページ。「毎月継続的に寄付する」から決済をお願いします。

■ 口座からの自動引き落とし

電話、電子メール、団体ホームページ「お問い合わせフォーム」にて口座振替用紙をご請求ください。

1回の寄付・募金

■ オンライン決済での寄付

団体ホームページ「支援する」ボタンより、「寄付する」ページへ。「今回のみ寄付する」をクリック。オンライン決済をお願いします。

■ 下記口座へのお振込

振込口座

<ゆうちょ銀行からお振込みの場合>

銀 行 名 ゆうちょ銀行
口座名義 特定非営利活動法人ジャパンハート
口座番号 00910-3-166806

<他の金融機関よりお振り込みの場合>

銀 行 名 ゆうちょ銀行
口 座 名 義 トクヒ) ジャパンハート
預 金 種 目 当座
金融機関コード 9900
店 名 ○九九(ゼロキュウキュウ)店
店 番 099
口 座 番 号 0166806

里親として

●ミャンマー

養育施設「Dream Train (ドリームトレイン)」

「Dream Train」で暮らす子どもたちの養育は、里親制度を基盤としています。一人の里親に対して一人の子どもを紹介し、年に2回子どもの成長記録(写真・手紙)をお届けします。里子に会いに現地へ行くことも可能です。まずは詳しい資料をご請求ください。



『緊急災害サポーター基金』にご協力下さい

一人でも多くの人々の大切ないのちを救うため、日本そしてASEAN内で起こる大規模災害に対し、近隣国にある団体のそれぞれの拠点から、迅速に医療支援チームの派遣を行います。皆様の継続的なご支援により、災害直後からの医療支援に加え、災害の多発する国々との協力・支援体制を整え、各地での防災知識の普及や訓練を行うことができます。



●カンボジア

医学生・看護学生奨学生支援「夢の架け橋プロジェクト」

両親がいない、もしくは片親、家族に病人がいるなど、家庭が貧しく教育を受けられない医師・看護師志望の学生が大学へ通うための学費・生活費は、里親制度を基盤としています。一人の里親に対して一人の学生を紹介し、年に2回子どものレポート(写真・手紙)を届けます。里子に会いに現地へ行くことも可能です。まずは詳しい資料をご請求ください。

ボランティアとして

医療の知識、経験がなくても参加できます。(※海外での活動参加には会員登録が必要。) ミャンマーでは病院や養育施設 Dream Train、日本では東京事務局や各種イ

ベント、すまいるスマイルプロジェクトへのサポートなど、皆様の参加をお待ちしております。詳しくは、東京事務局へお問い合わせ下さい。

① 短期で参加 (ミャンマー)

●ザガイン・ワツチェ慈善病院

手術や診察に来る多くの患者さんであふれる病院では、外来診察介助、病棟看護ケア介助、処置に使うガーゼや綿球の作成・滅菌、医療器具の洗浄の手伝い、患者さんとの交流および現地人スタッフへの日本語教育など、様々な仕事を体験できます。

●養育施設 Dream Train

施設での食事作り・掃除・洗濯をスタッフや子どもたちと一緒に手伝ってください。一緒に遊んだり、勉強したりと、言葉は通わずとも、無邪気な子どもたちと交流が図れます。

② 短期で参加 (カンボジア)

現地の病院における外科手術のほかに、医療機関へのアクセスが悪い村での巡回診療を行っています。それらは短期ボランティアの医師・看護師が主体となって行います。医師は外科・内科問わず、看護師はキャリアによって手術介助や病棟管理などを私たちと一緒にいきます。(※医療者のみ)

③ 日本国内で参加

●東京事務局での運営サポート

宛名書きやパソコン入力作業、資料請求の発送作業など。

●プロボノ支援

広報活動、翻訳(英語、ミャンマー語、クメール語、ラオス語)、コンピューターシステム構築、文書作成、印刷物の企画、デザイン、画像編集、レイアウト、イベント・キャンペーンの企画運営、写真や動画撮影、編集など。

●すまいるスマイルプロジェクトでの企画のサポート

企画から実行までの各種調整、付き添い、しおりやアルバム作成など。





Japan Heart

特定非営利活動法人 **ジャパンハート**

— 問い合わせ 資料請求 —

特定非営利活動法人ジャパンハート 東京事務局

〒110-0016 東京都台東区台東 1-33-6 セントオフィス秋葉原 10 階

TEL : 03-6240-1564

FAX : 03-5818-1610

Email : japanheart@e-mail.jp

URL : <http://www.japanheart.org/>

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。